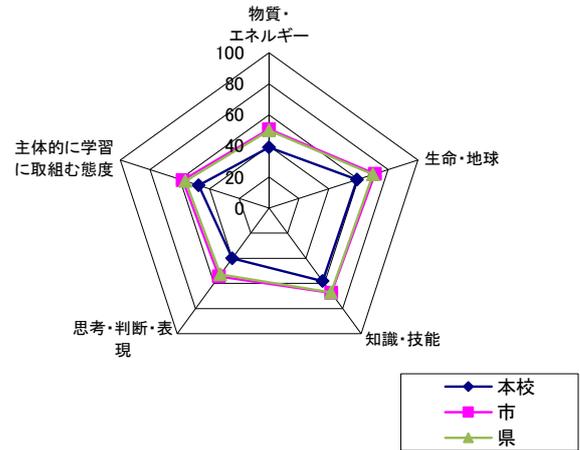


# 宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	39.1	50.8	50.0
	生命・地球	59.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	58.2	67.6	67.2
	思考・判断・表現	40.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	47.3	58.1	56.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○表を見て、乾電池のつなぎ方が何つなぎになっているかを理解している児童が多く、県平均より8ポイント高い。</p> <p>●閉じ込めた空気や水について答える問題では、空気や水の体積には、どんな性質があるかということが定着していない児童が多く、県平均より30ポイント低かった。</p> <p>●物のあたためり方に関する問題では、電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気のあたためり方をもとに考えて説明することができる児童が少なく、県平均より19ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気や水の体積について、朝の学習の時間などを使って復習する機会を設け、確認し、定着を図る。</li> <li>・実験を行う際には、結果を予想したり、実験後に結果をもとに考察したりする時間を多く設ける。</li> <li>・実験の様子や結果を既習の知識を生かしながら、絵や図、自分の言葉で表現する機会を多く取り入れる。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○折れ線グラフの気温の変わり方から天気を推測する問題は正答率が県の平均より5ポイント高かった。</p> <p>○1年間の生き物の様子について理解している児童が多く、県の平均と同じである。</p> <p>●グラフからヘチマの茎の伸びと気温の変化の関係を読み取り、説明する問題では、県の平均より26ポイント低かった。</p> <p>●月の動きについて答える問題では、満月の1日の動き方が定着していない児童が多く見られ、県の平均より20ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花から実へ」の単元の学習を行う際に、4年生の既習内容を復習し、理解の定着を図る。</li> <li>・日頃から月や星の動きや並び方について話題に取り上げることで、観察の結果と身近な事象を結び付けて考えたり、自然事象の変化に興味をもたせたりする。</li> <li>・模型や映像を活用して、自然現象の変化を実際に確認させ、理解が深まるように指導していく。</li> </ul>